

ミソナオシ	<i>Ohwia caudata</i> (Thunb.) H.Ohashi	絶滅危惧Ⅰ類
		マメ科
選定理由	個体数が極めて少ないうえ、日本における分布域の北のへりにあたると考えられ、特に貴重である。	写真(加藤範夫)
形態の特徴	茎は高さ30-90cm。葉は3出複葉。小葉は長さ2-9cmで狭長卵形。花は帯黄白色。茎の先や葉腋に総状花序をつくり多数の花をつける。節果の縫合線は上部と下部がほぼ等しくびれ、小節果はほぼ楕円形で4-6個。	
生態的特徴	マメ科の半低木。花期は8-10月。林縁や道端に生える。若い枝は緑色であるため、常緑の草本のように見える。節果は目立たない。節果はかぎ毛に被われていて動物に付着する。	
分布状況	本州関東地方から沖縄県に分布し、中国大陸からインドシナなどに分布する。岐阜県では、県南西部のごく限られたところのみ見られる。	
減少要因	林道わきなどに生育するため、過度の草刈りなどによる減少や、道路拡張などによる環境の改変が減少の要因。	
保全対策	道路拡張などによる環境の改変で、その個体群が絶滅するおそれがあり、工事の際には特に慎重を期する。過度の草刈りによる消滅も懸念される。	
特記事項	近年では、独立したミソナオシ属(<i>Ohwia</i>)に分類される。	
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅱ 保育社 1961 日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類 平凡社 1982	

文責:福岡義洋